

学校法人 内田学園 七沢希望の丘初等学校

ぼちぼちいこか

学校だより 11 月号

2025.10.30 発行

教育理念

生きる喜びを抱き
自ら学びを拓く

プレイデイ ～大事にしたいのは自己決定と自分への挑戦～ 校長 大谷 京司

どんなプレイデイにしたいのか、自分たちで考え、競技や演技の内容やルールなど、自分たちで最終決定する。この集大成が、プレイデイの当日ということになります。

1年生から放送係として実況中継したり、審判係として「よいドン！」の合図を鳴らしたりします。自分で望んだ係の仕事を精一杯行っている姿は大変頼もしく見えます。

また、1人ずつ走る本校ならではの徒競走。

これは、体力テストの50m走の記録と実際のコースを測った記録から係数を算出して、それぞれの

目標タイムを定めて、それに挑戦する形で行っています。自分へ挑戦する姿は、見ている者もすべての子どもたちを応援したくなります。

今年は大激戦の末、梅グループが優勝の賞状とトロフィーを手に入れました。各種目の配点も得点係が考え、最後の2試合はみんなに得点を見せないようにして得点発表しようということになりました。みんながドキドキして見つめる中、最後の梅グループの得点が発表されると、拳

を突き上げて喜ぶ子どもたちの姿がとても印象的でした。

「たのしめてるか」のスローガンは、子どもはもちろん、子どもたちから楽しい競技や笑顔あふれるダンス、自分の責任を全うしようと頑張っていた係活動やリーダーを中心に築き上げたチームワークを見せてもらった観客の皆様にも届いたのではないかと思います。



稲刈り・脱穀



昨年、刈り終わった後の束ねの時間が足りなかったとの反省から、今年は、5・6年生は4株刈ったそばから、次々に束ねていくという方法をとりました。保護者の皆様にもお力添えいただいたこともあり、今年は時間内で束ねもほとんど終わることができました。



脱穀は、天候不順から2度延期しましたが、24日(金)は、幼稚園児も初等の縦割りグループに加わり、昔の農具の千歯こき、足踏み脱穀機、唐箕も体験しながら、すべてを脱穀することができました。

稲刈り ～児童の感想より～

- 切った時ザクザク音がなって少し気持ちよかった。
- 稲から落ちる水滴がシャワーみたいで涼しかった。
- 色々な虫(カマキリ、クモなど)がいて楽しかった。



脱穀 ～児童の感想より～

- 千歯こきでもみが外れるときの音がよかった。
- 足踏み脱穀機は踏むタイミングがずれると歯の回る方向が逆になって難しかった。



自修館の中高校生と共に SDGsを考える



9月29日(月)、自修館中等教育学校の中・高校生が秋休みを利用して本校を訪れ、初等学校の児童と共にSDGsについて考える機会をもちました。特に、後半のグループディスカッションでは、最近ニュースでよく話題になるクマの出没の原因や対策などを考えたほか、タヌキなどの動物による農作物への被害やキジなどの絶滅危惧種への対応などを多角

的に考え意見を出し合い、発表しました。

休み時間に思いっきり子どもたちと遊んでくれる自修館生とのひとは、子どもたちにとってもとても楽しみな時間となっています。今年で4年目になりますが、今後も是非続けていきたいと思っています。



さつまいも掘り・焼き芋



今年植えたさつまいもは「紅はるか」。81kgも収穫できました。

翌々日には、校庭で焚火をしながら焼き芋を

して、お弁当と一緒に食べました。少し焦げてしまったものもありましたが、ほくほくととても甘い焼き芋の味に子どもたちは満足したようでした。



味噌の天地返し

「姿を変える大豆」を学習する3年生に2月に仕込んだ味噌の天地返しをお願いしました。試食に一言「うま〜い！」。



お味噌は給食で提供します